

## 鮮やか真黄色なイペの花(城山公園のイペの森に)

小 関 栄

イペの木はイペーとかイッペエとも呼ばれる南米特産の落葉高木。五月中旬に、新緑の葉に先駆けて、ひととき鮮やかな真黄色の花を咲かせる。ノウゼンカズラ科で黄金ノウゼンとも云われている。(下の木の枝先部分の花の写真)



花の村の光陽の里の西北端、水垂と初馬の境に城山公園があり、そこにイペの森がある。この森は地元出身の平野運平さん(ブラジル移民の先駆者で、ブラジル開拓の父と云われている)顕彰会が渡伯100周年を記念して五年ほど前にイペの木を数十本植えたので名付けられている。

イペの木は耐寒性が弱く、夏の水不足と相まって育ちが良くなかったため、その後何度か補植しているが、この度、粟本地区民が街づくりの一環として公園を整備し増植もすることとなった。(28/7~28/10の4ヶ月間)やがて何年後にはこの木が成長して名前のようにイペの森なるだろう。この花はブラジルの国華、今夏はブラジルのリオでオリンピックがあり、また9月6日はブラジル独立記念日である。この森を愛し花を愛でて、ブラジルとも一層近く親しくなることを祈っている。



(左の写真は、イペの森と同時に植えた掛川市生涯学習センターの平野運平銅像前のイペの木、植えて五年で未だ小さい。5/31撮影)

さわやかに 黄金のフリル イペの花 淡水

### 「布マルチ稲作普及のためのパンフレット作成」について

今年度、4年後の東京オリンピックを控え、花の村では布マルチ稲作については積極的に取り組むこととしておりますがこの度普及推進用のパンフレットを作成することとしました。布マルチ稲作は西日本を中心に展開していますが東日本では低調です。

初期の水管理を完全に行えばあとは放任状態でもよい省力的な農法です。

静岡県掛川市初馬地区は水田の圃場整備が進み、パイプラインが敷かれ暗渠もあり水の管理がコック一つで容易にできること。さらには野田芳宏さんがここ初馬で10年近く連綿と布マルチ稲作に取り組み技術的な蓄積があることから初馬に着目しました。

布マルチ稲作の考案者は鳥取大学名誉教授の津野幸人先生で「学園花の村」の理論的指導者でもあります。お布団農法とも言われ、2枚の綿製の布の間にモミを入れロール状にしたものを敷いていくのが田植えに相当します。除草剤を使用せずに水田雑草を退治できる省力化農法です。

パンフレット作成費用は600千円を見込んでおり、その大半を農林水産業みらい基金を利用する計画でいます。パンフレットの配布は今年の10月を予定しています。

..人と自然にやさしい布マルチ稲作..

藤本 将 記